

独立行政法人宇宙航空研究開発機構の 中期目標・中期計画について

平成24年9月27日

独立行政法人宇宙航空研究開発機構

第2期中期目標・中期計画策定当時の基本的な考え方

以下の基本方針に従って、平成20年度に、第2期中期目標・中期計画が策定された。

基本方針

- 主務大臣(総務大臣及び文部科学大臣)が、宇宙開発委員会の議決を経て策定する「宇宙開発に関する長期的な計画」(今後10年程度の期間を対象として宇宙航空研究開発機構の果たすべき役割を定めるもの)に基づき決定する。
- 「宇宙開発に関する長期的な計画」については、平成20年2月22日に決定。(参考)

独立行政法人宇宙航空研究開発機構法

(宇宙開発に関する長期的な計画)

第十九条 主務大臣は、中期目標(航空科学技術に関する基礎研究及び航空に関する基盤的研究開発並びにこれらに関連する業務に係る部分を除く。)を定め、又は変更するに当たっては、宇宙開発委員会の議決を経て主務大臣が定める宇宙開発に関する長期的な計画に基づかなければならない。

第2期中期目標・中期計画の策定時からの事業に関する主な変更点

1. 「GXロケット及びLNG推進系に係る対応について(平成21年12月16日 内閣官房長官、宇宙開発担当大臣、文部科学大臣、経済産業大臣)」が取りまとめられ、GXロケットについては、需要の見直し、全体計画・所要経費の見直しの状況を踏まえ、開発には着手せず取り止めることとされた。
また、**LNG推進系**については、①国内外のロケットの推進系や軌道間輸送機などの推進系としての適用の可能性 ②概ね技術的な見通しは得られており、国際的にも優位性を有していることを踏まえれば、今後も研究開発を継続し、その技術を完成させるべき等の理由から、今後は、これまでの研究開発の成果を活用しつつ、技術の完成に向けた必要な研究開発を推進することとされた。
その後、平成22年3月31日の宇宙開発委員会において、LNG推進系の研究開発についてJAXAから報告し平成22年度の研究開発計画について了承が得られたことも踏まえ、中期目標、中期計画を変更。
2. 宇宙基本計画に「**だいち2号**」の打ち上げが位置づけられていること及び宇宙開発委員会での事前評価(平成21年12月)を終え「だいち2号」のプロジェクト作業を開始したことから、中期計画に追記。
3. 宇宙基本計画に**次期X線天文衛星「ASTRO-H」**の研究開発が位置づけられていること及び宇宙開発委員会での事前評価(平成21年11月)を終え「ASTRO-H」のプロジェクト作業を開始したことから、中期計画に追記。
4. 宇宙基本計画に**小型科学衛星**の施策が位置づけられていること及び宇宙開発委員会に報告を行い(平成22年7月)、小型科学衛星のプロジェクト作業を開始したことから、中期計画の小型科学衛星に関する記述箇所を見直し、プロジェクトの位置づけを明確化。
5. **電波天文衛星(ASTRO-G)**プロジェクトについて、アンテナ技術課題などの問題が見出され、技術的成立性、必要な追加資金に対するサイエンスとしての価値等の面からプロジェクトを中止することが妥当と判断し、機構内の経営審査、宇宙開発委員会での評価を経て、プロジェクトを中止したため、中期計画に反映。

中期目標・中期計画の主な内容

※本資料におけるプロジェクトの運用・開発状況の記載は中期目標・計画策定当時

- 中期目標期間
平成20年4月1日から平成25年3月31日(5年間)
- 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
 1. 衛星による宇宙利用
 2. 宇宙科学研究
 3. 宇宙探査
 4. 国際宇宙ステーション(ISS)
 5. 宇宙輸送
 6. 航空科学技術
 7. 宇宙航空基盤技術の強化
 8. 教育活動及び人材の交流
 9. 産業界、関係機関及び大学との連携・協力
 10. 国際協力
 11. 情報開示・広報・普及
- 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
 1. 柔軟かつ効率的な組織運営
 2. 業務の合理化・効率化
 3. 情報技術の活用
 4. 内部統制・ガバナンスの強化
- 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画
 1. 予算
 2. 収支計画
 3. 資金計画
- 短期借入金の限度額
- 重要な財産を譲渡し、又は担保にしようとするときは、その計画
- 剰余金の使途
- その他主務省令で定める業務運営に関する事項
 1. 施設・設備に関する事項
 2. 人事に関する計画
 3. 安全・信頼性に関する事項
 4. 中期目標期間を超える債務負担行為
 5. 積立金の使途

前文

独立行政法人宇宙航空研究開発機構(以下「機構」という。)は、平成15年10月に旧宇宙科学研究所、旧宇宙開発事業団及び旧航空宇宙技術研究所が統合し、我が国の宇宙開発利用及び航空科学技術を先導する中核機関として発足した。

機構発足後の第1期4年6か月において、これまでの「技術の開発と実証」を中心とした取組みから、その技術開発の成果を社会・経済に還元するための取組みへと重心を移してきた。

第2期において、機構は、その置かれた状況とその役割を十分認識し、与えられた目標の実現に向けて果敢に挑戦していく。未知未踏のフロンティアに挑戦し、英知を深め、安全で豊かな社会の実現に貢献する取組みをより一層発展させるために、長期的・国際的視野に立って宇宙・航空分野の研究開発及び利用を戦略的に推進する。

独立行政法人宇宙航空研究開発機構の中期目標を達成するための計画(中期計画)

平成20年4月1日

独立行政法人宇宙航空研究開発機構

衛星による宇宙利用

- 「地球環境観測プログラム」、「災害監視・通信プログラム」、「衛星測位プログラム」に重点化。

地球環境観測プログラム

【運用中】

- 熱帯降雨観測衛星 (TRMM/PR)
- 地球観測衛星 (AQUA/AMSR-E)
- 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)

【中期目標期間中に打上げ予定】

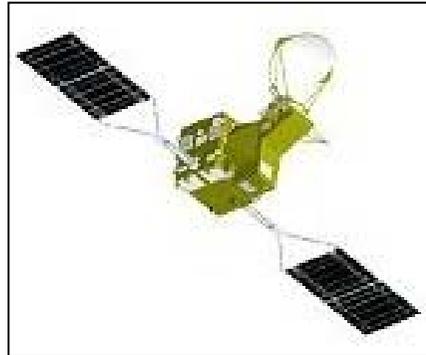
- 温室効果ガス観測技術衛星 (GOSAT)
- 水循環変動観測衛星 (GCOM-W)

【平成25年度以降打上げ予定】

- 雲エアロゾル放射ミッション／雲プロファイリングレーダ (EarthGARE/CPR)
- 全球降水観測計画／二周波降水レーダ (GPM/DPR)
- 気候変動観測衛星 (GCOM-C)
- 陸域観測技術衛星2号 (ALOS-2)



温室効果ガス観測技術衛星 (GOSAT)



水循環変動観測衛星 (GCOM-W)

災害監視・通信プログラム

【運用中】

- データ中継衛星「こだま」(DRTS)
- 陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)
- 技術試験衛星Ⅷ型「きく8号」(ETS-Ⅷ)
- 超高速インターネット衛星「きずな」(WINDS)

【平成25年度以降打上げ予定】

- 陸域観測技術衛星2号 (ALOS-2)

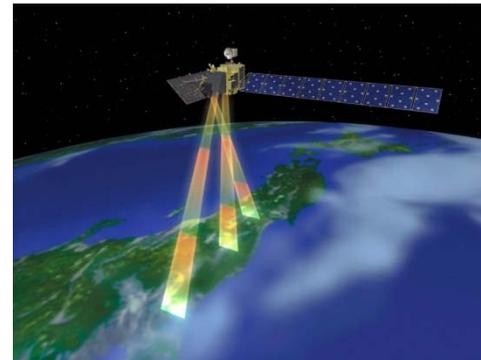
衛星測位プログラム

【運用中】

- 技術試験衛星Ⅷ型「きく8号」(ETS-Ⅷ)

【中期目標期間中に打上げ予定】

- 準天頂衛星初号機



陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)



準天頂衛星初号機

宇宙科学研究

大学共同利用システムを基本とした学術研究

- 宇宙科学研究における世界的な拠点として、研究者の自主性の尊重、新たな学問分野の開拓等の学術研究の特性に鑑みつつ、大学共同利用システムを基本として、宇宙空間からの宇宙物理学及び天文学、太陽系探査、宇宙環境利用、宇宙工学の各分野に重点を置いて研究を推進。

宇宙科学研究プロジェクト

【運用中】

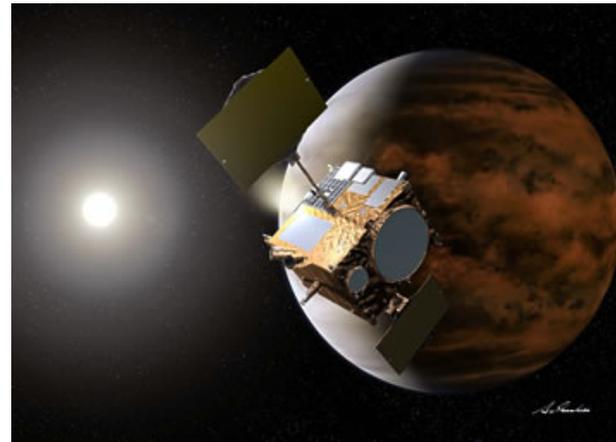
- 磁気圏観測衛星「あけぼの」(EXOS-D)
- 磁気圏尾部観測衛星「ジオテイル」(GEOTAIL)
- X線天文衛星「すざく」(ASTRO-EII)
- 赤外線天文衛星「あかり」(ASTRO-F)
- 小型高機能科学衛星「れいめい」(INDEX)
- 太陽観測衛星「ひので」(SOLAR-B)

【中期目標期間中に打上げ予定】

- 金星探査機 (PLANET-C)

【平成25年度以降打上げ予定】

- 水星探査プロジェクト (Bepi Colombo)
- 次期X線天文衛星 (ASTRO-H)
- 小型科学衛星 (SPRINT) シリーズ



金星探査機 (PLANET-C)

宇宙探査／国際宇宙ステーション(ISS)

宇宙探査

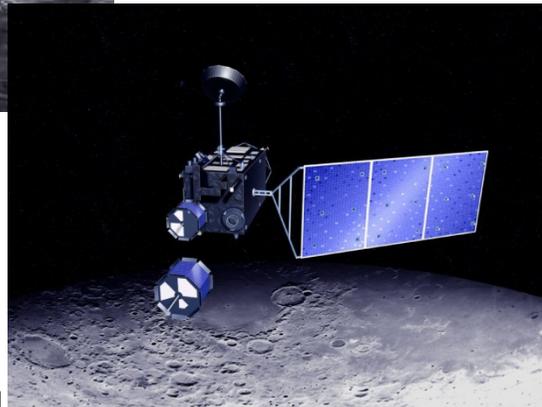
- 国際協力枠組みを活用して、我が国が主体性・独自性を持つ形での宇宙探査プログラムを検討した上で、月・惑星等における人類未到の活動を行うことを目指した研究開発を行う。

【運用中】

- 小惑星探査機「はやぶさ」(MUSES-C)
- 月周回衛星「かぐや」(SELENE)



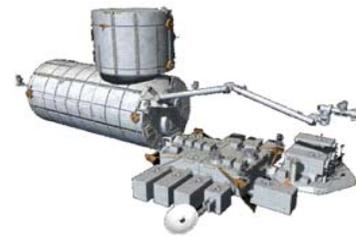
小惑星探査機「はやぶさ」



月周回衛星「かぐや」

国際宇宙ステーション(ISS)

- 日本実験棟「きぼう」(JEM)の着実な運用により、我が国の責務を果たすとともに、有人宇宙技術等の宇宙技術の実証及び蓄積を行う。また、ISS/JEMの利用の推進を行うことで、新たな知見の獲得及び産業への応用等を促進する。

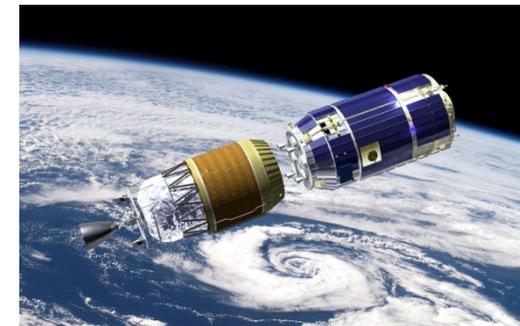


日本実験棟「きぼう」



国際宇宙ステーション (ISS)

- 宇宙ステーション補給機 (HTV) の開発及び運用を着実に進行。



宇宙ステーション補給機 (HTV)